

国民年金
厚生年金保険

老齢基礎年金支給繰下げ請求書

〔老齢基礎年金および老齢厚生年金、または老齢厚生年金のみを66歳以降に繰下げて受けようとするとき、の届〕

*基礎年金番号(10桁)で届出する場合は左詰めでご記入ください。

① 個人番号(または基礎年金番号)											
年金コード											
② 生年月日		昭和・平成		年	月	日					
③ 特別支給の老齢厚生年金または老齢基礎年金の受給権を取得した日以降に国民年金または厚生年金保険(船員含む)の被保険者であった期間がありますか。ある方は、該当する制度の名称および期間を記入してください。		あ る ・ な い									
		名 称									
		期 間		平成	年	月	～	平成	年	月	
④ 特別支給の老齢厚生年金の受給権を取得した日以降に各種共済組合等の組合員または加入者であった期間がありますか。ある方は、その共済組合等(支部)の名称および期間を記入してください。		あ る ・ な い									
		名 称									
		期 間		平成	年	月	～	平成	年	月	
⑤ 配偶者について、右の欄に記入してください。	現在、公的年金制度等から老齢・退職または障害を支給事由とする年金を受けていますか。	ア 老齢・退職の年金を受けている		イ 障害の年金を受けている			ウ いずれも受けていない				
	受けているときは、その公的年金制度等の名称および個人番号(または年金証書の基礎年金番号)・年金コード、恩給証書等の記号番号	名 称									
	その支給を受けることとなった年月日	昭和・平成・令和		年	月	日					
⑥ あなたは現在、公的年金制度から年金を受けていますか。受けている方・請求中の方は、その制度の名称および年金証書の年金コード(記号番号)を記入してください。	ア 受けている ・ イ 受けていない ・ ウ 請求中										
		名 称									
		年金コード(記号番号)									
⑦ 上記⑥の年金を受けている方は、その支給を受けることとなった年月日		昭和・平成・令和		年	月	日					
⑧ 老齢基礎年金についても繰下げを希望されている場合、引き続き繰下げを希望されますか。繰下げを希望する場合のみ、右の欄の「はい」に○をつけてください。		はい(老齢基礎年金の支給はまだ開始しません。)									
⑨ 生 計 維 持 申 立											
配偶者および子の氏名		生 年 月 日			個人番号			受給権者との続柄		障害の状態にありますか	
		昭・平・令 年 月 日								あ る ・ な い	
		昭・平・令 年 月 日								あ る ・ な い	
		昭・平・令 年 月 日								あ る ・ な い	
<input type="checkbox"/> 上記の者は、受給権を取得した当時から引き続き生計を維持していることを申し立てる。 <input type="checkbox"/> 上記の配偶者によって、私は生計を維持されていることを申し立てる。											
令和 年 月 日				受給権者氏名							

(生計維持申立書欄中「□」は、いずれか該当する方に「✓」を記入してください。)

令和 年 月 日 提出

郵便番号 □□□□ - □□□□

住 所

受給権者(フリガナ)

氏 名

電話番号 () - () - ()



(裏面の「記入上の注意」をよく読んでから記入してください。)

記入上の注意

- ②の年号は、該当する文字を○で囲んでください。生年月日が、たとえば、昭和29年10月2日

生まれの場合は、

昭和	平成	2	9	1	0	0	2
----	----	---	---	---	---	---	---

のように記入してください。

- ③および④は、該当する文字（ある・ない）のいずれかを○で囲んでください。
- ⑤には、老齢基礎年金・老齢厚生年金を受ける方であって、配偶者（夫または妻）のある方は、配偶者の年金について、記入してください。⑤に配偶者の個人番号を記入した場合は、⑨に配偶者の個人番号の記入は不要です。

上欄は、該当する文字（ア・イ・ウ）のいずれかを○で囲んでください。アまたはイに該当する方は、中欄および下欄にも記入してください。なお、「公的年金制度等」とは、次の制度です。

1. 国民年金の障害年金および障害基礎年金	2. 厚生年金保険	3. 船員保険（旧法の年金のみ）
4. 国家公務員共済組合	5. 地方公務員等共済組合	6. 私立学校教職員共済
7. 廃止前の農林漁業団体職員共済組合	8. 恩給	9. 地方公務員の退職年金に関する条例
10. 日本製鉄八幡共済組合	11. 執行官	12. 旧令による共済組合等
13. 戦傷病者戦没者遺族等援護		

- ⑥には、自分自身の年金について、記入してください。
上欄は、該当する文字（ア・イ・ウ）のいずれかを○で囲んでください。アまたはウに該当する方は、中欄および下欄にも記入してください。なお、「公的年金制度」とは、次の制度です。

1. 国民年金	2. 厚生年金保険	3. 船員保険（旧法の年金のみ）	4. 国家公務員共済組合
5. 地方公務員等共済組合	6. 私立学校教職員共済	7. 廃止前の農林漁業団体職員共済組合	

66歳の誕生日以後、他の年金の受給権を有したことがある方が、それ以後、支給繰下げの申し出をした場合は、他の年金の受給権を有した日において支給繰下げの申し出があったとみなされます。

- ⑧は、老齢基礎年金についても繰下げを希望されている場合で、引き続き老齢基礎年金の繰下げを希望される場合のみ「はい」を○で囲んでください。
- ⑨には、老齢厚生年金の受給権者で、加給年金額の対象者である配偶者および子（18歳到達日以後の最初の3月31日までの間にある子または国民年金法および厚生年金保険法の障害等級の1級または2級に該当する障害の状態にある20歳未満の子）のある方が、引き続き生計を維持していることの申立てをしてください。
- 黒インクのボールペンで記入してください。鉛筆や、摩擦に伴う温度変化等により消色するインクを用いたペンまたはボールペンは、使用しないでください。

この届書に添えなければならない書類

- 受給権者の基礎年金番号を確認できる書類（年金証書のコピー等）
- 受給権者の生存が確認できる戸籍抄本（①欄に個人番号（マイナンバー）を記載した場合および老齢基礎年金を受給中の場合は省略できます。）
- 加給年金額の対象者がある方は、その対象者と受給権者との身分関係を明らかにすることができる戸籍抄本（住民票でこれにかえることはできません。）
- 加給年金額の対象者である配偶者または子が受給権者によって生計を維持していることを証する書類（世帯全員の住民票および加給年金額対象者の所得証明書または非課税証明書）（個人番号を記入したときは、添付を省略できる場合があります。）
- 加給年金額の対象者のうち国民年金法および厚生年金保険法の障害等級の1級または2級に該当する障害の状態にある子があるとき（実施機関から診断書が不要である旨の通知を受けている方を除きます。）は、医師または歯科医師の診断書（この診断書の用紙は、共済組合または年金事務所にあります。）
- 老齢基礎年金に額の加算（いわゆる振替加算）が行われる受給権者にあつては、次の書類
 - 配偶者と受給権者の身分関係を明らかにすることができる戸籍抄本（住民票でこれにかえることはできません。）
 - 配偶者によって受給権者が生計を維持されていたことを証明する書類（世帯全員の住民票および加給年金額対象者の所得証明書または非課税証明書）（個人番号を記入したときは、添付を省略できる場合があります。）
 - 配偶者の年金について、給付内容を証明する書類

この届書を提出する際に住所を変更している方は住所変更届を、受取機関を変更している方は受取機関変更届を、氏名を変更している方は氏名変更届を添えてください。